

日本作業療法士協会 海外研修助成制度

実績報告書

発表演題名：A case report regained an important role of a softball supervisor with task-oriented training

学 会 名：18th WFOT CONGRESS

会 期：2022年8月27日～31日

開 催 地：PARIS CONVENTION CENTRE

申請者

氏 名：原 修平

所 属：社会医療法人 三校会 宮崎病院

会 員 番 号：61993

所 属 士 会：長崎県

1. 発表演題の概要

今回、症例に対してソフトボール監督という作業の再獲得を目標に設定し、課題指向型アプローチを実施し、その作業の再獲得に至った経緯を報告する。本症例は60歳代後半の男性。右視床出血による左片麻痺との診断で当院急性期病棟治療後、X+20日リハビリ強化目的で当院回復期病棟へ入棟されている。FMA-UEは59/66、STEFは左68/100、MAL-AOUは1.86/5.00、MAL-QOMは2.00/5.00。JCSはI-1、MMSEは27/30点、TMT-Aは143秒、Bは349秒。注意障害・左半側空間無視・左半身身体失認が疑われた。介入期間は、X+70日～X+135日の65日間、1日60～80分間の作業療法を実施した。効果判定として、X+70日とX+135日のFMA-UE・STEF・MAL-AOU・MAL-QOM・TMT-A・TMT-B・COPMで比較し効果を検証した。X+70日ADOCを使用しソフトボール監督の再獲得を目標に設定し、そのために必要な①守備練習のためのノック、②バッティング練習のためのウィンドミル投球、③練習場までの屋外歩行に対して課題指向型アプローチを実施した。X+135日時点でFMAは62→62と変化なし、STEFは左87→100、MAL-AOUは3.28→4.00、MAL-QOMは3.21→4.00、TMT-Aは102秒→97秒、TMT-Bは185秒→175秒まで改善した。また、COPMでは（重要度/満足度/遂行度）が（8→8/2→5/2→6）へ改善した。退院後ソフトボール監督という作業の再獲得に至った。今回、ADOCを使用し目標を設定し共有することで症例自身のモチベーションが高まり、また訓練の具体性を高めたことでアウトカムの改善につながり、ソフトボール監督という作業の再獲得に至ったと考える。

2. 学会参加と発表の印象

2022年8月28～31日の4日間、フランスのパリで18th WFOT 学会が開催され、現地

ポスター発表させて頂きました。新型コロナウイルスの世界的な大流行の影響で当初は2022年3月に開催予定でしたが、感染状況を考慮し、開催時期を遅らせて頂いたことで、私自身も現地参加することができました。コロナ禍になって、学会の現地参加は一切できていなかったもので、初の国際学会というだけで非常に楽しみでしたが、現地での学会参加ということで楽しみも倍増しておりました。

フランス・パリに到着し、初めはただただ久々の海外とパリの美しい街並みに感動しました。パリの街並みは、白を基調とした石造りの建物が並び、統一感のある景色が広がっており、すべてがお洒落でした。パリではマスクをつける人も少なく、コロナに対する感染対策の認識も大きく異なっていたこともあり、日本とのギャップが大きくかなり印象でした。

学会は、“PARIS CONVENTION CENTRE”という会場で開催され、非常に大きな会場でした。会場には、世界中のOTが参加していました。パリの街並みに負けず劣らず、学会の雰囲気もかなり刺激的で、私自身もコロナ禍の影響で現地開催の学会というだけで興奮しておりましたが、会場に世界中のOTが集まり、ディスカッションする雰囲気は最高でした。私は当初e-ポスターだけの予定でしたが、紙ポスターでの発表もさせて頂きました。私は英語が得意でなかったため、コミュニケーションに不安を抱きながら学会に参加しておりましたが、参加者の雰囲気もかなりフランクで気軽に話しかけてくれました。私が英語を苦手だと察すると、わかりやすく話しかけてくれました。また、一緒に学会参加していたOTが通訳してくれたり、翻訳アプリを使用したりして、言語的なハンディを埋めつつ、なんとかディスカッションすることができました。発表以外のコミュニケーションでは、英語が苦手な影響が少なからずあり、もっと積極的にコミュニケーションを取っていたら、もっと英語ができたらと多少の後悔が残っています。今まで国際的な交流はほぼ経験がなかったので、英語や海外に興味を持つことは全くなかったのですが、今回のWFOTをきっかけに初めて国際交流、英語に興味を持つきっかけとなりました。

WFOTの講義を聴講し、本当に多くの刺激を受けました。私自身、回復期リハビリテーション病棟で勤務しているため、私の作業療法の対象は患者様となることが多いです。しかし、世界中のOTは、紛争・戦争、災害、肥満、犯罪者など本当に多様な対象者に対して作業療法を行っていました。もっと世界中のOTがどんな対象者に、どんな作業療法をやっているのか、非常に興味を持ちました。私の作業療法の幅が広がったのと同時に、作業療法についてももう一度勉強したいと思わせてくれました。私自身特に英語もあまり話せず、海外に対して特に興味があったわけでもないのですが、今回WFOT学会に参加したことで新しい目標ができました。それは、また再びWFOT学会で発表し、世界中のOTと英語でコミュニケーションを取ることです。そのためには、英語の勉強はもちろんですが、作業療法の研究も頑張っていこうと思いました。

最後に、この場を借りて感謝を申し上げたいと思います。まずは、このような感染状況で国際学会への参加を許可して頂いた職場に感謝申し上げます。また、円安の影響もあり、経済的にも今回の日本作業療法協会の助成制度がなければ、現地での学会参加は叶いません

でした。本当に今回の助成制度のおかげで自身の OT 人生で貴重な挑戦をさせて頂く機会となりました。本当にありがとうございました。

3. 文献

Morris DM, Taub E, Mark VW: Constraint-induced movement therapy: Characterizing the intervention protocol. *Eura Medicophys* 42(3): 257-268, 2006.

Kounosuke T, Sei U, Syota K: Utilization of the iPad application: Aid for Decision-making in Occupation Choice. *Occup Ther Int* 19(2): 88-97, 2012.

Kounosuke T, Yuki S, Hirofumi N: Reliability and validity of individualized satisfaction score in aid for decision-making in occupation choice. *Disabil Rehabil.* 35(2): 113-7, 2013.

J H van der Lee, H Beckerman, D L Knol: Clinimetric properties of the motor activity log for the assessment of arm use in hemiparetic patients. *Stroke.* 35(6):1410-1414, 2004.

4. 論文掲載情報（学術雑誌に投稿し、論文掲載された場合に記載）

今後挑戦させて頂こうと思っています。

